

2020年度新規採用予定者内定式について

2019年10月1日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、2019年10月1日（火）10時から、国立研究所において、「2020年度新規採用予定者内定式」を行いましたのでお知らせいたします。

内定式では、経営幹部立ち会いのもと、熊谷則道理事長から新規採用予定者21名一人ひとりに内定通知書が手渡されました。引き続き、採用予定者は理事長から激励の言葉を受けました。



写真 内定通知書を受け取る内定者

理事長 激励の言葉

本日、この場においていただいた皆さんに内定通知をお渡しできたことを、大変うれしく思います。私とここに列席している役員は、皆さんが鉄道総研に加わっていただいたと感じています。

科学技術での大きな変革、すなわち第四次産業革命やSociety5.0と呼ばれているように、デジタル化、IoT、ロボティクス、AIなどの導入による革新技术の創出が多くの産業界で進められています。鉄道にもこのダイナミックな動きを取り入れていこうと意図しています。

現在、鉄道総研では、2020年4月から始まる5年間の基本計画を策定しています。このなかで研究開発の重要事項として、自然災害に強い鉄道を創ること、鉄道技術のデジタル化による技術革新をもたらすことなどを設定することで進めています。

多忙な時期と思いますが、鉄道の研究開発で大事にしている、三点を心にとめておいていただきたいと思います。

第一番目は、研究開発が社会にどのように役に立つか意識すること。

第二番目は、研究開発を粘り強く進める気概、また楽しむ気持ちを持つこと。

第三番目は、研究開発では安全性向上を最優先すること。

1964年に開業した東海道新幹線を出発点とする高速鉄道のシステムが社会にイノベーションを与えました。今後の30年には、超高速新幹線、超電導磁気浮上式新幹線、自動運転などのシステムや先端技術がイノベーションのトリガーになるでしょう。将来の鉄道の革新に関心は尽きません。「温故知新」の言葉通り、新しい知を生むために先達の方法をよく見つつ、オリジナリティあふれる研究を目指してほしいと思います。

鉄道総研の役目は社会への貢献です。特に強調したいことは鉄道の安全の維持・向上です。私たち鉄道人は「安全は輸送業務の最大の使命である」という言葉を大事にしています。多くのお客様に鉄道を利用していただくために、より安全な鉄道をつくるというゆるぎない目標をもっています。皆さんは今、社会への扉の手前にいます。社会への貢献は鉄道の価値を高めることに繋がります。

研究開発に取り組む際に、粘り強く進める気概を持つとともに、楽しむ気持ちも大事です。鉄道以外の仲間との交流を大事にしてください。広い視野をもつことは冷静に鉄道を見ることにもつながります。

本日から数カ月、集中して修士論文なり博士論文を全力で仕上げてください。時間の余裕がありましたら、鉄道の安全の維持について、皆さん自身の感性で意識して下さい。

鉄道総研は皆さんの若い力を必要としています。来年の4月から、共に鉄道をよくするための研究活動に携われることを楽しみにしています。



写真 激励の言葉を贈る熊谷理事長